

## 平成27年度弁理士試験論文式筆記試験問題

### [民事訴訟法]

次の各設問について理由とともに答えよ。なお、各設問は独立のものとする。

- (1) **A**は**B**に対して200万円の貸金債権を有しているが、**B**は無資力で支払える状態にない。しかし、**A**は、**B**に対して、その貸金債権を主張して200万円の支払を求める訴えを提起した。この訴えは適法か。
- (2) **C**は**D**に対して200万円の貸金債権を有しているが、既に弁済期から時効期間の10年と1か月がたっている。しかし、**C**は、**D**に対して、その貸金債権を主張して200万円の支払を求める訴えを提起した。この訴えは適法か。
- (3) **E**と**F**は、**E**の**F**に対する200万円の貸金債権について、**E**が訴えを提起しないで**E****F**間の話し合いで解決すべきであることを合意した。しかし、**E**は、**F**に対して、その貸金債権を主張して200万円の支払を求める訴えを提起した。この訴えは適法か。
- (4) **G**が、**H**に対して400万円の貸金債権を有していたところ、**H**が死亡し、その2人の相続人である**I**と**J**が、その債務を200万円ずつ相続した。**G**が**I**に対してその債務である200万円の支払を求める訴えを提起したところ、一審判決は**G**の請求を全部認容した。ところが、その後、控訴期間満了前に、**J**の相続放棄により**I**の**G**に対する債務が400万円になっていることが判明した。そこで、**G**は、請求を400万円に拡張するために控訴を提起した。この控訴は適法か。

【100点】